

11月1日号から5回にわたり、中学生サミットを終えた各校の生徒会役員が、自分たちの学校紹介と今後の目標を語ります。今回は太東中学校と菖蒲中学校です。

問合せ 指導課指導係 (内線4262)

## 菖蒲中学校



←一所懸命な部活動



PTAと連携したボランティア活動▶

サミットでは、他校の「誇りや活動」の発表を聞いて勉強できたし、菖蒲中の良いところを発見、再確認できました。

本校の校訓「一所懸命」を合言葉に、みんなが今自分のできることを全力で取り組む姿が学校のいろいろなところで見られたり、感じたりすることができます。部活動では、その結果、多くの運動部が県大会出場、吹奏楽部は西関東大会出場を果たしました。また他にも、地域やPTAと連携してのボランティア活動等も盛んです。

今回のサミットでは貴重な経験ができました。ここで自分たちの活動をさらに発展させるなどして、よりよい菖蒲中学校をつくっていきたいです。

## 太東中学校



←あいさつ運動



合唱祭▶

中学生サミットを終えてからすぐに、共同宣言にある「積極的なあいさつ運動」を始めました。今まで以上に活性化させるため、生徒会だけでなく、生活安全委員会と協力行っています。あいさつを通して、友達を尊重し、共によりよい集団生活を築こうとする人間関係を目指しています。

また、今回のサミットで、どの中学校も特色のある学校行事を行っていて、そうした体験的活動を通して生徒一人一人がさまざまな能力を発揮していることを知りました。太東中学校でも、学級や学年を超えた生徒相互の心の交流を図り、絆を深められる学校行事を成功させたいと燃えています。

## 連載 久喜歴史だより (第2回)

### 静御前の伝承

栗橋駅周辺の伊坂地区には、源義経の恋人であった静御前の悲恋にまつわる伝承が語り継がれています。

静御前は、舞を職業とする白拍子の磯禪師の娘で、当代随一の白拍子と評されていました。室町時代初頭に書かれた『義経記』には、後白河法皇が雨乞いの儀式で100人の白拍子を順番に舞わせたところ、100人目の静御前が舞うとたちまち黒雲が現れ、3日間雨が降り続いたことから、法皇より「日本一」と称されたと記されています。

この静御前にまつわる伊坂地区の伝承では、兄源頼朝に攻められ、奥州に逃れた義経の跡を追う途中、義経の討死を知り、悲しみのあまり病となり、文治5年(1189)9月15日に伊坂で亡くなったとされています。静御前の遺骸は、伊坂の高柳寺に埋葬されたと伝えられます。なお、高柳寺は、後に中田(現在の茨城県古河市)へ移転し、光了寺と名を改めています。光了寺には、雨乞いの儀式で与えられたとされる「蛙蟬籠の舞衣」が静御前の遺品として伝えられています。

また、栗橋北の経蔵院の本尊「地藏菩薩像」(市指定文化財)には、静御前の持仏との伝承が残されています。現在、栗橋駅東口から徒歩1分の

場所にある「静御前の墓」(市指定史跡)は、享和3年(1803)に勘定奉行・関東郡代であった中川飛騨守忠英が、静御前の伝承を聞き、墓に墓碑がないことを哀れみ建立したものです。

この「静御前の墓」には、当初は墓碑の代わりとしてスギの木を植えたとの伝承があります。文化・文政期(1804~1829)に編さんされた『新編武蔵風土記稿』には、「静御前の墓」と共にスギの太木が挿絵に描かれています。このスギは、弘化3年(1846)の利根川の氾濫により枯れてしまっています。

大正12年(1923)には地元有志によって静女古蹟保存会が結成されています。現在では静御前遺跡保存会によって、静御前の命日と伝えられる9月15日には毎年墓前祭が営まれています。静御前の伝承は今もなお地元の人々によって語り継がれ、守られています。



静御前の墓

問合せ 文化財保護課文化財・歴史資料係 (内線4323)